

協議会ニュース

No. **161**

2018. 12



Contents

- | | | |
|----|-----------------------------------|--------------|
| 02 | 生物分類研修会報告 | 事務局 石原 則義 |
| 03 | あいちの自然観察会報告 9/23 「十五夜イブの夜の豊橋公園」 | 東三河支部 星野 京子 |
| 04 | 秋の宿泊研修旅行 ー中津川・阿寺方面ー | 知多支部 吉房 瞳 |
| 05 | あいちの自然観察会報告 8/1 「きれいな川で生きものを探そう！」 | 尾張支部 齋竹 善行 |
| 06 | 野山のめぐみを装いに 木の実のアクセサリー ③ | 名古屋支部 佐藤 裕美子 |
| 07 | 私の活動紹介 | 名古屋支部 滝田 久憲 |
| 08 | 行事案内/事務局からのお知らせ/編集後記 | |

今号の表紙

「小幡緑地のせせらぎ湿地にて」 平山 希能（名古屋支部）

愛知県における外来魚問題

講師：名城大学理工学部環境創造学科准教授 谷口義則氏
レポーター：石原則義

10月8日(月・祝)日本特殊陶業市民会館3階の第1会議室において、名城大学准教授の谷口義則氏から、「愛知県における外来魚問題」、オヤニラミとコイについての問題点を講演いただいた。聴衆は58名。

まずはオヤニラミ。スズキ目ケツギョ科の在来淡水魚で、関西以西に自然分布している。本来分布しないはずの愛知県で確認されるようになった。観賞魚として人気が高く、川に放たれ定着。肉食性で縄張りを持ち、攻撃的であることから在来魚に負の影響が懸念される。そのため愛知県では「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」により規制対象に選定された。

2016年から2017年の7月～11月に犬山市の五条川源流部の流程約2.0kmにおいてオヤニラミの生息状況の調査をした。生息状況としては、0歳魚から3歳魚(成魚)。体長は、1.7～10.1cm、平均は4.8cmであった。流れの緩やかなところに生息。植生が繁茂している場所に生息。

2016年は捕獲せず、2017年は夏季調査区間で35ヶ所中19ヶ所で95個体駆除。秋季調査区間では5ヶ所中4ヶ所で19個体駆除。1年の採捕ではオヤニラミの根絶は困難。流れが緩やかな植生付近を中心に、複数年継続して駆除することが必要だと話された。

オヤニラミとオイカワの食性は、ユスリカやカゲロウが重複する部分があり、競争的影響がある。ヨシノボリ、カワムツを捕食するので、在来魚類に負の影響の恐れがあるとのことだった。

次にコイは、私たち日本人に最も親しみのある魚の一種だが、コイの放流の是非が問われるようになった。コイは野生型(日本在来)と飼育型(ユ

ーラシア大陸から移入)の2タイプに分けられる。野生型は琵琶湖にのみ生息。絶滅の危機にある。

愛知県内の広域に生息するコイのほとんどはユーラシア大陸原産の飼育型もしくは野生型と飼育型の交雑個体である。

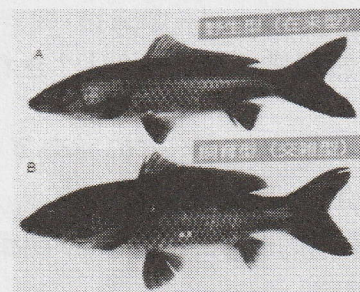
日本では、市民による放流や給餌により、不自然なほどの生息密度になっている都市河川がよく見られる。飼育型の影響が危惧される。しかし、河川における影響は未解明である。

天白川支流の植田川の全長9kmで20mごとに25ヶ所で調査をした。確認された魚類は、遊泳魚類、底生魚類、甲殻類・水生昆虫である。コイの影響があったのは、底生魚類のヨシノボリ類、カマツカ、ナマズ、カムルチー。少しありはドジョウ。遊泳魚類では、カダヤシ、タモロコが少しあり。甲殻類であるエビ類、アメリカザリガニには影響なし。ヤゴに少しありだった。

問題点としては、まず放流・給餌を規制する法律がない。次に人々のコイに対する親しみ。つまりコイは”外来”という認識度が低い。一般的な図鑑への掲載(新学名、和名)が必要である。



オヤニラミ



コイ

Mabuchi and Matsuzaki 2017

“自然観察とギターの調べのコラボレーション”

『豊橋公園十五夜イブ月光浴自然観察会』実施報告

東三河支部 星野 京子



去る9月23日仲秋の名月前夜、豊橋公園で当支部の地域自然観察会を実施しました。心配された天候も、当日の月光浴に合わせたかのように回復し、月出の頃観察会のムードは一層高まりました。

当日の月齢13.7(21時) 月出17:06 日没17:49で、観察会は17時半から2時間実施しました。なお参加人数は、一般大人25名、子ども9名、当会員のスタッフ30名(内ジュニア会員1名)、と大盛況でした。

夜間観察会は2006年10月7日葦毛湿原、2012年9月29日葦毛湿原、2015年9月26日豊橋公園と過去3回開催していますが、毎回大好評で、特に今回はギターの演奏を聴きながら月光浴！というロマンチックな企画のためか、初めての方が何人もいました。

夜の観察会ですから、会員には「光る腕輪」を装着し、懐中電灯で足元に気を付けながら、安全管理に特に留意して、ひとつの集団で観察ルートを誘導しました。

主な内容をご紹介します。

① 「植物の夜 植物も眠るの？」

カタバミの就眠運動を観察しました。

② 「アブラコウモリの観察」

会員親子によるコウモリクイズやバットディテクターでコウモリの超音波を観測し、採餌行動を中心に観察しました。

③ 「秋の鳴く虫 どんな鳴き声かな？」

鉄櫓下で子ども達を中心に虫探しをしました。

聞いた虫の声…アオマツムシ、ツツレサセコオロギ、エンマコオロギ、オカメコオロギ

出会えた昆虫…カマキリ、ツツレサセコオロギ、チャタテムシの一種

④ 月を観ながらの「月の話」

月はどうしてできたの？

月の大きさと月への距離クイズ

月面の模様の秘密

伝統的に月を愛でる言葉 13日(十三夜) 14日(小望月・待宵月) 15日(十五夜・満月・望月) 16日(十六夜) 17日(立待月) 18日(居待月) 19日(寝待月) 20日(更待月)

これらが「月の話」の主な内容です。

⑤ 月光浴ギターLive in 豊橋公園月

演奏：鈴木俊介(アコースティックギター)

曲目：月の砂漠、ドビュッシーの月の光などオリジナル曲を含めた計4曲

月光の下での素晴らしい演奏に皆さんうっとり。贅沢な時間でした。(写真)



PS: 天野保幸会員が公園内でドッジボール大の白いオニフスベを発見し、月夜のキノコウォッチングのおまけもありました。

好条件の今回の月光浴観察会は、参加者の心を驚づかみにしたようです。

皆様のご協力で大きなトラブルもなく、無事に終えることができました。

秋の宿泊研修旅行

—中津川・阿寺方面—

知多支部 吉房 瞳

【日 時】2018 年 10/27(土)～28(日)

【場 所】10/27(土)大池公園⇒笠岩(国天)
⇒坂本のハナノキ(国天)⇒中津川市鉱物
博物館⇒尾張支部山本尚三氏農園(自然
体験場の準備)⇒賤母の材木遺伝資源保
存林(以前は学術参考林)⇒柿其「すず
め」(泊)

10/28(日)恋路峠⇒阿寺溪谷⇒諏訪神社⇒
道の駅⇒大池公園

【天 気】1日目、2日目 晴れ

【参加者】10名 指導員：浅井一、岩本、
桑原、竹内秀、永田、藤井、降幡、南川、
村井、吉房

車が進むにつれて、スギ、ヒノキ、アス
ナロの緑がヤマハゼとマルバノキの紅葉、
タカノツメの黄葉へと変化していった。見
事な花崗岩の笠岩！！まるでお化けキノコ
が生えているようである。花崗岩でできた
千畳敷の上は、舞台に立っているようで眼
下に恵那峡が見えた。これ以上近づくと
でも言うかのように、センボンヤリがたく
ましく生えていた。坂本のハナノキの自生
地は木道が整備されていて、コムラサキや
シロシキブが見頃である。

中津川市鉱物博物館では豊富な鉱物を見
学し、宝石探しに時間をかけたがいい物は
見つからなかった。尾張支部山本尚三氏農
園は、自然体験場にするため一人で頑張っ
ている彼のバイタリティーに感動した。か
つて国道 19 号線沿いだった賤母の材木遺
伝資源保存林では、ツチアケビが真っ赤に
熟した実を沢山付けていて、食べると甘酸
っぱかった。

柿其の民宿「すずめ」にて、豪華な食事
と今年初のマツタケに歓声が上がった。

翌朝散歩に出ると吐く息が白く、手が冷
たくて手袋が欲しくなった。人間の気持ち
とは不思議なもので、恋路峠と改名してか
ら観光客が増加したとのこと。以前無かつ
た手すりの鎖に錠前がぶら下がっていた。
愛が成就することを陰ながら願っている。

阿寺溪谷の紅葉と黄葉、エメラルドグリー
ンの木曾川の流れが美しい。ポットホール
が何カ所もあり、思わず知多の海岸で見
るタイドプールと比べてしまった。12 cm位
もあるナナフシを見つけ、皆自分の手と比
べてしまった。諏訪神社では珍しい木々が
多く、シダレエノキを初めて見た。



▲恵那市にある国天、傘岩



▲花と紅葉が見られるマルバノキ

あいちの自然観察会

きれいな川で生きものを探そう！

尾張支部 齋竹善行

○日時 平成30年8月1日(水) 10:00-12:00

○場所 犬山市栗栖の桶ヶ洞川

○参加者 一般 17名、指導員 8名

今年の支部総会で、「あいちの自然観察会」は夏休みの平日に川で生きもの観察をすることに決まりました。

これまでの「あいちの自然観察会」は定例観察会メンバーや他支部の指導員を念頭に置いたものが多かったのですが、今回は親子連れを想定して企画しました。

一般への周知は中日新聞の自然関連のイベント案内「鳥・虫・花」欄を予定していましたが、これが廃止になってしまったので、急遽チラシを作成し、会員の協力を得て一宮の138タワーはじめいくつかの施設に置かせてもらうとともに、地域のメーリングリストなどにも案内を投稿しました。

そうしたPRにもかかわらず、前日までに問い合わせの電話は2件しかなく、どれだけの参加があるか心配でした。当日になると6家族17名（大人5名、子ども12名）の一般参加がありました。実施場所の広さなどからみて、ちょうどよい数で一安心とあったところです。

現地で注意事項や観察のしかたについて説明を聞いて、早速川に入って生きもの探しが始まりました。川底の石をひっくり返したり、タモで水の中をすくったりして、サワガニやヌマムツの稚魚、水生昆虫などを捕まえ、バケツに入れていました。

1時間ほど経った頃に淵に仕掛けておいた魚のトラップを引き上げたところ、ヌマ

ムツとヨシノボリが入っていました。これを含め、それまでに参加者が採った生きものを持ち寄って種ごとに分けて説明を受けました。

見られたものはサワガニ、ヘビトンボ・カワゲラ・トビケラの幼虫、コオニヤンマ・コヤマトンボ・ヤンマの仲間のヤゴ、ヌマムツ、ヨシノボリ、アマガエル、トノサマガエルなどでした。これらの多くは水質指標で「きれいな水」あるいは「少しきたない水」にすむ生きもので、ヒルやミズムシなどの「きたない水」にすむ生きものは見られず、ここの水質がよいことを示しています。

さすがこうした行事に関心を持って参加して来られただけあって、子どもたちはもちろんですが、お母さん方も童心にかえってしっかり楽しんでおられた姿が印象的でした。



▲子どもたちは楽しみながら生きもの探し

野山のめぐみを装いに



～ジュズダマのネックレス

木の実のアクセサリー ③

名古屋支部 佐藤裕美子

子どもの頃、ジュズダマでネックレスを作って遊んだ経験をお持ちの方も多いと思います。手持ちのビーズをプラスして、おしゃれなアクセサリーにしてみました。ネックレスとチャームを別を作り、付け外しできるようにしました。

▶ネックレス部分

《材料》ジュズダマ・茶と白の小ビーズ・楕円パールビーズ・赤中ウッドビーズ・楕円ウッドビーズ以上適宜・ワックスコートワイヤー（または糸と針）・つぶし玉・エンドパーツ・留め金具

①ジュズダマは硬く乾いたものを使い、針などで穴を通しておく。

②ワックスコートワイヤー70cmを3本用意し、片方の端10cmくらいの位置で3本合わせて固く結んでおく。

③3本一緒にしてジュズダマを1個通す。

④1本目のワイヤーに白小ビーズ5個通し、《ジュズダマ2個→茶小ビーズ→楕円パールビーズ→茶小ビーズ→ジュズダマ2個》を8回、最後は10cmくらい残し、白小ビーズ5個通し、つぶし玉で止める。

⑤2本目のワイヤーに茶小ビーズ→楕円パールビーズ→茶小ビーズ、以下は④と同じ順でジュズダマの向きを反対にして④と同じ長さまで作り、同様につぶし玉で止める。

⑥3本目のワイヤーに白小ビーズ3個通し、《楕円ウッドビーズ→赤ウッドビーズジュズダマ→茶小ビーズ→ジュズダマ》を1モチーフとして④と同じ長さを作る。ジュズダマは尖った方が相対するように配置する。

⑦3本をゆるく三つ編みにしてつぶし玉のところで3本一緒にジュズダマを1個通す。

⑧最後に3本一緒に固く結び、結び目を接着剤で固定する。最初の結び目も同様に。結び目をエンドパーツで固定し、留め金具を取り付ける。

※モチーフは3本の長さがだいたい揃うように調整します。1本目2本目のジュズダマはそれぞれ同じ向きに揃えます。



▶チャーム部分（着脱可能）

《材料》ジュズダマ・ムクロジ・フジの実・トチの実（クルミでも）・赤ウッドビーズ・留め具・ワックスコートワイヤー（糸と針）

①木の実は熱湯で煮てから乾かし、トップコートを塗っておく。

②トチの実とフジ、ムクロジに穴を通す。

③ワックスコートワイヤーにジュズダマ→ムクロジ→赤ウッドビーズ→フジの実→モダマの順に通し、小ビーズ1個を入れて逆に各実に通して最後のジュズダマの後に丸カンを取り付ける。

④丸カンに留め具をつける。

⑤ネックレスに取り付ける。

※木の実は手に入るものを使い、バランスを考えて順を決めて下さい。

※固くて穴が開けられない実には上下にヒールカンを取り付けてつなぎます。

私の活動紹介

名古屋支部 滝田久憲

私は 1996 年 7 月に横浜のこども自然公園で全国講習会を受けて指導員になりました。それから、あっという間に 20 年が過ぎてしまいました。今でも時折、食事の配膳などを協力し合って、指導員になった仲間はどうしているのだろうと考えます。

ところで、私が自然観察指導員になったきっかけは、偶然、本屋で「自然観察ハンドブック」（平凡社）を手にとり、NACS-J の自然観察指導員の存在を知ったからです。当時、私は仕事柄、水環境に関心があり、長久手市などの川やため池などの水辺に出かけていました。また、若い頃から写真撮影で各地の山村や農村などを訪れていました。こうした中、公共工事やライフスタイルなどの変化から、地域の自然などが少しずつ失われつつあることを目にしていました。さらにテレビゲームなどのような遊びの変化などから、都会の子供たちと同様に、これらの地域の子供たちの自然離れも進んでいることが気になっていました。そこで、自然観察指導員となって、子供たちに身近な自然にふれるきっかけを作りたいと考えました。

指導員になって、早速、自宅から近い東山公園で実施されている自然観察会に参加するとともに、長久手市の児童館の行事でネイチャー探検隊を立ち上げ、月に 1 回、子供たちと自然観察やクラフト作りなどを行ない、現在に至っています。また、名古屋支部では、2003 年に子供の自然体験を支援する「なごや自然教室」を立ち上げ、年に 3～5 回、東海 3 県だけでなく、滋賀県や静岡県などの自然豊かな場所や歴史景勝地を、公共交通機関などを利用して訪れています。

また、名古屋支部では名古屋市環境局が実施している「環境デーなごや」に代表される様々な環境関連行事に協力・参加しています。2004 年から始まったエコキッズ事業については、子供たちの環境学習を支援するということで、私は支部の仲間と共に環境サポーターとなって、名古屋市内の保育園や幼稚園、小学校などを訪れ、自然観察やクラフト作りなどの環境学習プログラムを実施しています。



▲ネイチャー探検隊で田んぼの生き物観察



▲保育園で環境学習プログラムを実施

【行事案内】

区分	日時	内容	場所	集合場所	担当
あ い ち の 自 然 観 察 会	1 / 12 (土) 9:00～12:00	冬鳥	前田公園 (豊田市)	前田公園 駐車場	西三河

～新しく協議会に加わった会員からのメッセージをご紹介します～

山を歩くことを趣味にしてみました。自分が歩いている山にも人の手が加えられたり保護されたりしている事に気付きました。それで、ただ歩くだけでなくもう少し違った関わり方を山に対してしようと思い指導員講習を受けました。これから活動の場が広がるよう願っています。(尾張支部 板倉 浩二会員)

<編集後記>

秋になるとよく見かけるクモは、その姿も名前もおどろおどろしい女郎蜘蛛です。10 月末、自宅近くの池の周囲を孫と散歩していました。「あ、クモ！」孫が目ざとく見つけたクモの巣ですが、か細い薄茶色の身体のおスが巣の中心付近に残っているだけで、黒地に黄・赤の横縞模様のメスの姿がありません。「メスはどこ？」あたりを探すと、いました。いました!! 柵の横木の下、雨のあたりにくい南向きの場所にメスがいました。すでに産卵を終え、卵塊の上を幾重にも白い糸で覆っているのです。メスがここにいなければ、何の卵塊かわからないままでした。自らの命と引き換えに次の世代を産み、来春無事に卵から孵るよう、卵を守る作業をしていたのです。厳粛なものを見たような気がしました。この卵塊は来春まで私の定点観察物になりそうです。(岡田)

編集スタッフ

岡田雅子 馬場隆之 日浦誠章

協議会ニュース編集部

日浦誠章 TEL:080-3505-7783 E-mail:yakinegi.maru@gmail.com

愛知県自然観察指導員連絡協議会(あいち自然観察会)事務局 石原則義

〒464-0096 名古屋市千種区下方町7-3 TEL/FAX : 052-711-3087

E-mail:norinameobata@yahoo.co.jp Web Page: http://naichi.net

郵便振替口座: 00820-9-6546 (名義: 愛知県自然観察指導員連絡協議会)